



野生動物、おうちで飼うとどうなるの？



専門家でも飼育が難しい動物がいます

日本ではさまざまな野生動物がペットとして飼育されています。しかし、野生動物は、もともと人とはまったく違う環境で生きてきました。おうちの中では、生息地に近い環境を再現できず、ストレスや病気を抱えてしまうこともあります。

野生動物を普通のおうちで飼えるのでしょうか？
彼らの“本当の暮らし”をのぞいてみましょう ▶



イラストについて

イラストレーターのぬまがさワタリさん (@numagasa) に制作いただきました。

フクロウ、コツメカワウソ、ショウガラゴ、フェネックの4種類をWWFジャパン公式SNSで公開中。

X @WWFJapan

Instagram @wwfjapan



図解 守るべき、法 フクロウ

神話や芸術、童話や映画... 文化にも深く根付いた鳥・フクロウ。 飼うのが難しい「孤高の猛禽類」としての一面も知っておこう。



まったく音をたてずに 飛ぶことができる



シロ フクロウ



メンフクロウ

主な獲物は ネズミや ウサギなど 様々な 小動物

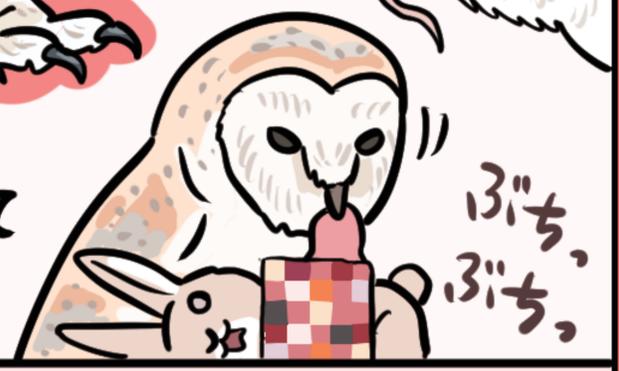


食べ方も 豪快!

丸呑み したり ...



引きちぎって 食べたり!



意外と するどい爪!



獲物をしっかり つかむため



がっ ちり!

おうちご

飼うと...?

家具が傷ついたり 穴があくかも!?



高級 ソファが...

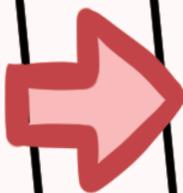
くちばしや爪のメンテナンスも大変

体を軽くするために
1日10回くらいフンをする



ぷりっ
ペリット(消化されなかった
骨や羽など)も吐く!

おうちで



飼うと...?

フンまみれになって掃除が大変
肉食動物なので
匂いも強い?

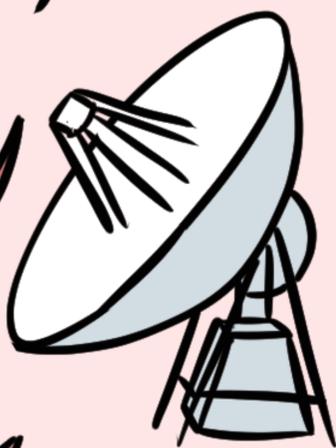
ここでフン
しないで〜



盲腸便と呼ばれるフンは
とてもくさい...!



のっぺりした平らな顔は
音を集めるアンテナ
のような役割



おうちで



飼うと...?

動く獲物のわずかな
音も聞き取れる!



小さな音や光に敏感で
人家はストレス過多!

ポンポン
ポロロ
コン
ポ

音にびっくりすると
壁や家具に激突することも...



ペットとしての人気が高まり、密猟や密輸の
危機にさらされるフクロウもいる。

実際に2012年~10年の間には
62羽のフクロウの密輸が発覚。

多くの国や地域では
ペット飼育の禁止や許可制など、
厳しい規制がされている。

ペット飼育を見直すこと...

それが危機にあるフクロウを救う方法だ。



ホーホー



にこにこして
かわいいね!

※まぶしくて
目を細めて
いるだけ





かわいい!と思ったら 知る・考えることから

タヌキは「ため糞」の習性がある



グリーンイグアナは2mまで成長



そのペット、ほんとに飼って大丈夫？

エキゾチックペットガイドは、野生動物を
“ペットとして飼えるかどうか”を考えるきっかけをつくるサイトです。

何がわかる？

- ✓ 飼育のリスクがわかる
- ✓ 野生での暮らしがわかる
- ✓ 専門家の声が読める

ペット飼育のリスクを知っていますか？

野生動物は人に慣れるのが難しく、威嚇する、大きな声で鳴く、穴を掘るなど、自然の中で見られるような野生動物特有の行動をとることがあります。

エキゾチックペットガイドはこちら ▶



こんな動物もペットにされているけど…?

コモンマーモセット



熱帯に生息する動物。
骨の病気にならないよう、
紫外線を浴びられる環境が必要

キンカジュ



鋭い爪や歯を持っており、
噛みつきによって深刻な
傷を負うかも…!?

ヨウム



知能が高いため
ストレスを感じやすく、自分で
羽を抜いてしまうことも…

ゴバタン



尾脂腺から分泌される脂が
粉状になった脂粉が飛び散る。
喘息など持病がある人は注意

コバルトツリーモニター



温度・湿度・紫外線の量を
適切に調節する必要がある

インド
ホシガメ



エサが高タンパクすぎると
膀胱結石がしやすい
(手術が必要になることも)



5つのリスク

1、野生動物を絶滅に追い込むリスク

ペット利用のために動物が野生から捕獲されることで、絶滅危惧レベルの高低問わず、危機が加速するおそれがある。



2、密猟・密輸を増加させるリスク

生息国で保護されている動物が、密猟・密輸の対象になることも。日本の税関が2007~2018年に押収したペット利用される野生動物は1,161頭にもなる。



3、動物由来感染症（人獣共通感染症）のリスク

哺乳類と鳥類がもつ未知のウイルスの、80万種以上が人間に感染するおそれも。ペットとして見かけるプレーリードッグやサル、コウモリも感染症法で輸入が禁止されている。



4、動物福祉を維持できないリスク

一般家庭では、野生動物の生態や習性を満たす環境を整えることは難しい。エサや温度、必要な空間は種それぞれ。野生動物を診療できる獣医師も少ない。



5、外来生物を発生・拡散させるリスク

飼育されていた野生動物が、逃げたり、捨てられたりして、外来生物となり、在来種や生態系に悪影響を及ぼすことも。

